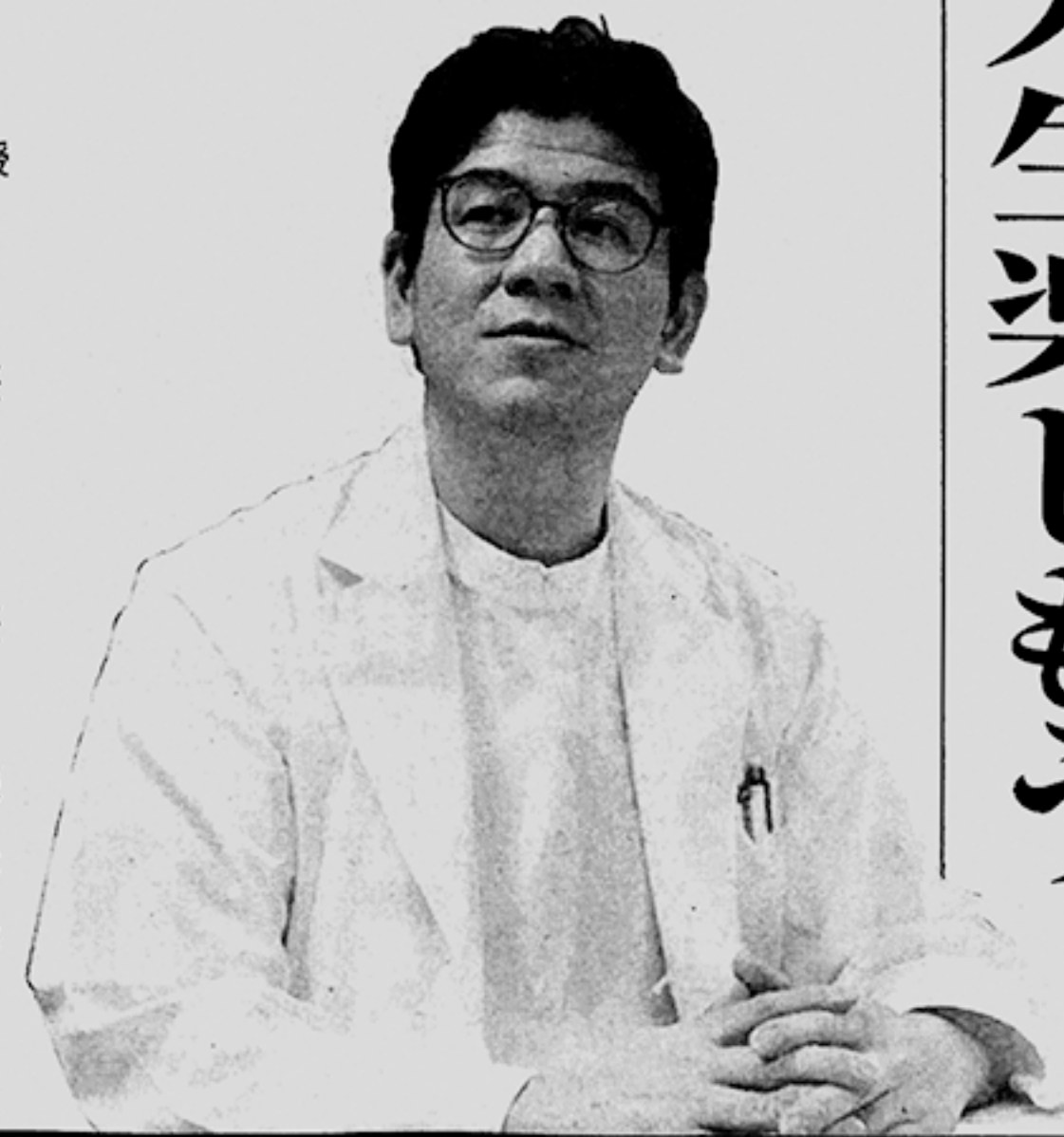


膝の痛み治して、人生楽しもう。

「変形性膝関節症」をご存じですか。

膝に痛みや動かしづらさを感じ、症状が進行すると、歩行や日常生活に支障をきたす病気です。愛媛大学関節機能再建学准教授で、本年4月1日に愛媛大学(医学部附属病院)人工関節センターのサテライト病院として開設された南松山病院関節治療センター長の日野和典さんに、変形性膝関節症の治療について聞きました。



愛媛大学 関節機能再建学講座 准教授

日野 和典 先生

日本整形外科学会認定整形外科専門医。日本スポーツ協会公認スポーツDr。関節鏡技術認定医。日本整形外科学会シンポジスト(膝関節部門)に5年連続選出中。愛媛FC、愛媛FCレディース、FC今治の膝関節治療も担当。

膝の痛みで生活に不便を感じたり、やりたいことを諦めたりしていませんか。膝の痛みの原因の多くは、加齢などによる軟骨のすり減りで起こる「変形性膝関節症」です。軟骨は再生が難しい組織と言われており、治療をせずに放置しておく、痛みのせいで動くのを避けるようになり、ますます筋力が低下し、その悪循環から歩行困難や寝たきりになってしまうケースもあります。要介護の原因疾患の上位を占め、変形性膝関節症を患っている人はそうではない人の5倍以上の要介護リスクがあるという調査結果も出ています。膝痛のある方は、関節痛のない人生を楽しみ、健康寿命を延ばすためにも、早めに診察を受け、自分の膝年齢を調べることをお勧めします。

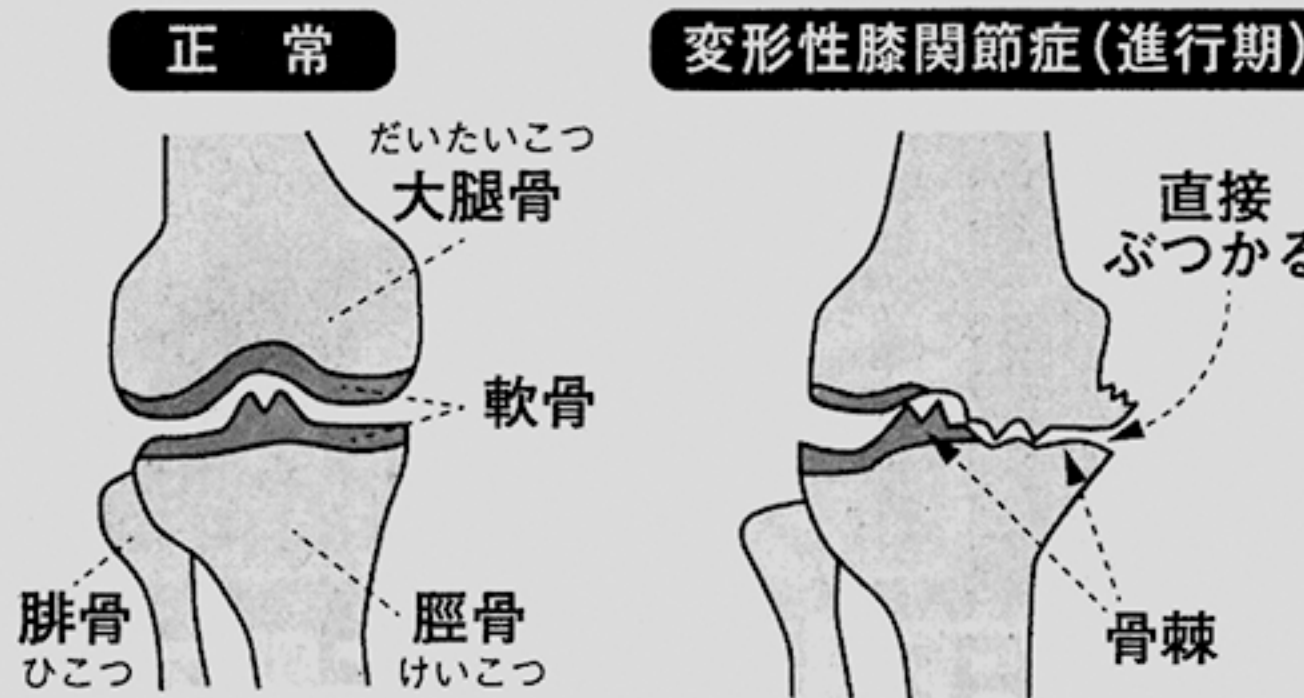
選択する治療法は進行の程度や年齢などによって異なり、軽度の場合には運動治療・薬物治療といった保存治療を、重度になれば手術療法を行います。手術療法は主に人工関節置換術と関節鏡視下手術、高位脛骨(けいこつ)骨切り術の3種類で、年齢や軟骨の状態、摩耗の範囲などに合った方法を選びます。高齢の方や軟骨の摩耗が進んでいる方には、変形した関節を人工関節に入れ替える人工関節置換術を行います。人工関節置換術の

膝関節の痛みを取り、健康寿命を延ばす

必要は右肩上がりが増えており、現在国内での年間手術件数は膝だけで約9万件にも上ります。

人工関節置換術を受けた翌日からリハビリが始まり、術後の早い段階で痛みや筋力の改善が見られ、われわれが調べた結果によると平均で約40%動作スピードが改善します。高い所からの飛び降りや正座などの動作制限はあるものの、日常生活動作は飛躍的に改善されます。できないと諦めていた農作業や趣味のゴルフを再開できるようになるなど、患者さんからは「人生が変わった」との喜びの声を多く頂いています。愛媛大学人工関節センターでは年間300例を超える人工関節置換術を実施してきましたが、大学では手術枠が決められているため要望に十分対応できず、手術を待機していただかなければならない状況でした。地域の皆様に関節疾患・治療に関する正確な情報とより安全・安心で質の高い関節治療を提供し、健康寿命の延伸に貢献することを目的に、2019年4月より愛媛大学附属病院と連携して開設された南松山病院・関節治療センターにより、患者さんの希望のタイミングでの手術にお応えしやすくなりました。

手術を怖いと感じるのは当然ですが、関節が動かなくなり、筋肉が少なくなるという悪循環の方がより怖い結果を招きますので、悩まず、放置せず、まずは診察を受けていただきたいと思えます。また変形性膝関節症のどのステージにおいても運動による筋力アップと可動域訓練が非常に大事だということも忘れないでください。しっかりと膝をケアして、健康寿命を延ばし、膝痛のない人生を楽しんでください。



置換術の必要は右肩上がりが増えており、現在国内での年間手術件数は膝だけで約9万件にも上ります。

広告に関するお問い合わせ

(株)中日アド企画 ☎052(239)1222

※医療行為についてはお問い合わせできません。